

自然界におけるクモの存在

クモの進化の歴史は約4億年。昆虫に比べてもはるかに長い歴史があるといわれています。そのなかでクモは、わたしたち人間の生活とも関わりを持ってきました。

人家などの屋内にすんでいる、アシダカグモは比較的大きなクモで、見ればゾッとする人もいるでしょう。しかし、人間を襲うこともなく、家の中のゴキブリやハエなどを捕食してくれます。

また水田の稲作害虫であるヨコバイやウンカなどを捕食してくれるクモもあり、農業に代わって害虫駆除に貢献してくれ

ています。

貝發さん「クモは猛毒を持つとか生き血を吸うなどの悪いイメージを持たれていますが、実際は人間にとって無害であり、有益動物なのです。」

クモは人間にとつての「害虫」を食べることで、「益虫」と呼ばれています。しかし、クモはクモよりもっと大きな生きもの、たとえば野鳥などのかっこうのエサでもあります。

また、ハチの中にはクモを専門に狩って麻酔をほどこし、巣に運んで自分の子どものエサにしている狩りバチもいます。

クモは食べたり、食べられたり、世界で、まさに生態系ピラミッドの底辺より少し上の中間部を支えている重要な存在なのです。



①アシダカグモ(アシダカグモ科)夜行性で、昼間は物陰に潜み、夜になると獲物を狙っています。

②クサグモ(タナグモ科)ゴキブリを捕食中。クモが食べるのは生きている(動いている)生きものです。

『クモの世界』をのぞいてみよう!

今回、『クモ』に焦点を当て、その興味深い生態についてご紹介してきました。このような視点を持つと、クモに対するイメージは以前と違ったものになると思います。

クモは樹木の枝の間、地面、溪流や海岸など、さまざまなところにすんでいます。家の中や軒先にもいる、わたしたちにとつて身近な生きものにも関わらず、毛嫌いでちゃんと見たことがないという人が多いのではないのでしょうか。

三重クモ談話会のみなさんにとって「クモがおもしろい!」と感じる魅力のひとつ

に「まだわかっていないことがたくさんある、不思議な生きもの」

というお話がありました。クモについての研究の歴史はまだ浅く、今後も調査を続けてクモのおもしろい生態について広く伝えていきたいと話してもらいました。

もし、これをきっかけにクモに興味を持ったら、ちよつと立ち止まってクモを観察してみましよう。もしかしたら、みなさんの観察によって、『クモの世界』に新たな発見があるかもしれません。

写真提供 三重クモ談話会塩崎哲哉さん貝發憲治さん

三重県総合博物館・三重県環境学習情報センター主催

スキルアップ講座

驚きのクモの世界

参加費
無料

私たちの身近にいるクモの生活について知り、生態系の中でどのような役割を担っているのかを考えます。クモの興味深い生態や、クモ毒についてもお話していただきます。

日時 平成26年 **11月15日** 土 10:00~12:00

会場 三重県総合博物館(MieMu) レクチャールーム

講師 三重クモ談話会 事務局長 **貝發 憲治 氏**

対象 ◇環境学習指導者養成講座の受講者
◇自然や生きものに関心がある方
◇自然観察会などを行っている方

締切 **10月21日** 火

募集人数 **50名**(18歳以上の方)

※申込多数の場合は抽選。その際、三重県在住の方を優先します。

「三重クモ談話会」ホームページ

三重クモ談話会では、一緒に活動する仲間を募集しています!

<http://miekumo.web.fc2.com/>

談話室

クモに関する話題を
投稿して、共有しよう!

クモ図鑑

三重県で観察できるクモ
を中心に、写真で紹介し
ています!